



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

PHARMACY NEWSBREAK

薬局の24時間対応、電子お薬手帳で健康支援

厚生省 ビジョン実現へ来年度にモデル事業

2025年までに全薬局がかかりつけ機能を備える薬局ビジョンの実現に向け、厚生労働省は来年度、4つのモデル事業を実施する。かかりつけ機能の一つ「24時間対応・在宅対応」については、小規模薬局では単独実施が難しいことが想定されるため、地域のほかの薬局との連携策を採る方針。健康サポートの一環として、電子お薬手帳に取り込まれた患者のさまざまな情報を薬剤師が活用し、健康意識の向上につなげる事業も実施する。

厚生労働省は先月、かかりつけ薬剤師・薬局の推進に向けた「患者のための薬局ビジョン」を策定。厚生労働省はビジョンを実現させるため、来年度からモデル事業に着手する方針で、概算要求で関連費用として約2.3億円を計上した。

事業は大きく、4つのテーマ別モデル事業と、薬局の実態に基づいてビジョン実現に向けた道筋を描くための実態調査・ロードマップ検討事業の2つに分かれる。モデル事業は①地域全体のかかりつけ薬剤師・薬局機能強化のための連携推進事業②多職種連携による薬局の在宅医療サービス推進事業③電子お薬手帳を活用した地域の先進的な健康サポート推進事業④薬局・薬剤師によるアウトリーチ型健康サポート推進事業—の4つのテーマを想定する。

●ケアマネジャーの情報基に服薬支援

薬剤師・薬局機能強化のための連携推進事業では、地域特性などに応じた薬局同士の連携策を検討する。かかりつけ薬剤師・薬局が持つべき機能の一つに24時間対応・在宅対応が掲げられた一方、規模の小さな薬局では単独で実施することが難しい面があることも踏まえ、輪番制などの連携策について検討する考え。薬局同士の連携については、患者の服薬情報をどう共有するかといった点などが現場の課題として指摘されている。

薬局の在宅医療サービスの推進事業は、東京都が「健康情報拠点推進事業」で実施している事業を想定。ケアマネジャーや訪問看護師が服薬状況に問題のある患者の情報を集め、その情報を基に薬剤師が患者宅を訪問し、服薬支援を実施する内容だ。

電子お薬手帳を活用した健康サポート推進事業では、食事の摂取状況や歩数などの健康情報を取り込むことが可能な電子お薬手帳を活用する。電子お薬手帳に入っているさまざまな健康情報を薬剤師が共有することで、適切な助言や相談など患者の健康意識を高める取り組みを展開。各社が開発する電子お薬手帳は高機能化の傾向にあり、血圧計などの健康機器と連動するタイプもある。

アウトリーチ型健康サポート推進事業は、薬剤師が薬局以外のさまざまな場で医薬品・健康関連の相談などを実施する内容を想定する。薬局の中で患者を待つのではなく、積極的に地域に行くことで、薬剤師・薬局の機能強化を図ることが狙い。

●立地条件など薬局の実態調査も

一方、実態調査・ロードマップ検討事業は、ビジョンの実現に向けた具体策を検討する材料として、薬局の立地条件や店舗面積、開局時間などの実態調査を行う方針。実態調査の結果を踏まえ、ビジョン実現に向けたロードマップを作成する。